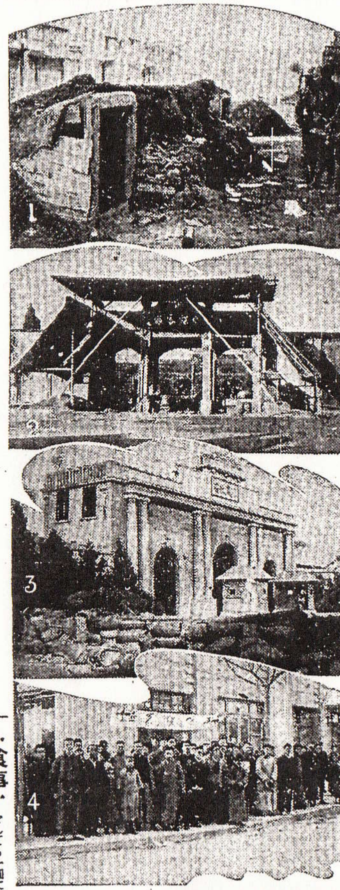
毎索(C)THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.　国立国会図書館　2015/10/01　13:54

皇祖神靈に御神樂の儀

あたかも戰勝慶祝の十五日宮中では皇祖神靈を慰め奉る御神樂の儀を天皇陛下御親拜のもとに嚴かに執り行はせられた、この日夕刻四時式部職樂部員奉仕、賢所前庭の御神樂舍は神さびた裝飾を施し賢所參集所には高松宮殿下を初め奉り在京各皇族殿下、近衛首相以下國務大臣、文武顯官、各官勅任官總代、奏任官總代、島津忠承公、伊達宗彰侯等參列、三條掌典長恭しく祝詞を奏すれば午後五時天皇陛下には齋服の御袍を召されて松平式部長官御前行、百武侍從長以下供奉出御あらせられ、神前に御參進親しく御拜あつて入御、續いて各皇族殿下の御拜禮あり、雅びやかな御神樂は霜おく神域の夜をこめて奏せられ深夜御儀を終らせられた

南京の扉を開いて見る



（1）市中に散在する防空壕＝松尾特派員撮影（2）南京國民政府參謀本部（3）南京國民政府（4）皇軍を中山路で迎へる支那避難民＝以上佐藤特派員撮影＝四に十の字の避難地區のマーク面白し、かれ等は拍手して皇軍を歡迎した（村上特派員記）

高物價と稅金の挾擊
"足"を奪はれた市民
宋美齡・噂の前線慰問

空襲下の南京生活
金陵大學・米人教授に聽く

【南京にて若梅、村上兩特派員發】記者等は十五日朝鼓樓にある有名な金陵大學を訪れた、屋上に星條旗を掲げたミッション・スクールだ、こゝはすでに教授、學生とも漢口へ移轉して英、米、獨、デンマークの四ケ國で組織された避難民救護所本部に充てられてゐる、刺を通ずると出て來たのは教授エム・エス・ベーツ氏でスマートな米國の青年學徒だ、ベーツ教授は『東日さんですか、私の子供東京にゐます、河井道子さん、その他代議士などにも友人が澤山あります、秩序ある日本軍の入城で南京に平和が早くも訪れたのは何よりです』と記者の手を握つた、そのすぐあとから支那服の老人が出て來た『東日さんですか、私は日本に留學したものです』と流暢な日本語で語り出した、教授陳嶸氏だ、陳教授は明治卅八年札幌の北大農學部第一期卒業生だ、當時の學長佐藤男爵の話などそのころの日本留學生生活を懷しみつゝ語つた、記者は陳氏と次の如く一問一答を試みた

「戰爭はどこが一番ひどかつたですか」

「中山門、光華門、通濟門の各城門や故宮、大校場飛行場目がけて日本軍の空爆や砲彈の集中は物すごかつた、こゝは幸ひに

空襲　砲擊から隔離され安全地帶だつたので夜など二階から見物したが實に壯觀でした」

「城內守備の支那軍はどの位だつたですか」

「五萬乃至十萬といはれ四川、廣東、廣西、湖南の全國から集まつた兵隊です、總指揮官は唐生智です」

「蔣介石が戰線を視察したといふがその姿は見なかつたですか」

「新聞にはさう書いてありましたが日本軍の南京總攻擊がはじまつてからは恐らく南京にはゐなかつたでせう、宋美齡女史はなかなか

活潑　な婦人ですから幾度も前線に慰問に出たといふ話です」

「上海と連絡を斷たれてからの南京の市民の生活はどうでしたか」

「南京は戰爭前は百萬の人口があつたのですが、上海が陷落して連絡がなくなつてから最近一ケ月間に三分の一に減り、今避難民はざつと十萬ばかり殘つてゐます、何しろ南京は生產都市でないため製造品の入荷がパッタリ消えてから物價は氣狂ひのやうに騰つてしまひました、マッチ、煙草、砂糖、衣服の類は二倍の騰貴、砂糖一斤四十錢もする、それでも貨物は品物がないから市民の手にはなかなか渡りません、石炭は五割、しかし

米と　野菜、鷄は揚子江沿岸から出るので食ふだけは不自由しませんでした」

「戰爭にバスが徵發されたので乘物は困つたでせう」

「もう二ケ月も前から市內のバスは殆ど運轉されず二週間前からは一台もありません、唯一の交通機關がないので市民は步くよりほか仕方がありませんでした、自家用の車を持つてゐるものでもガソリンは一日一合五ガロン以內の消費を制限されました」

「軍費のため大分稅金が上つたでせう」

「戰爭がはじまつてから財政部で取る所得稅は月收卅圓が每月五十錢、百圓が二圓五十錢の割合で取つてゐます、飯店（料理屋）で

食事　をしても一圓につき五錢の稅がかゝり、映畫を見ても入場料の一割が稅金、何もかも稅金づくめでした」

「支那兵は塹壕や陣地構築に土民を使ふやうだがその制度は」

「概して南京市民はあまり使はれなかつたが郊外の人々は軍から命令があると百姓達は田畑からすぐ戰場に送られ使はれてゐたさうです」

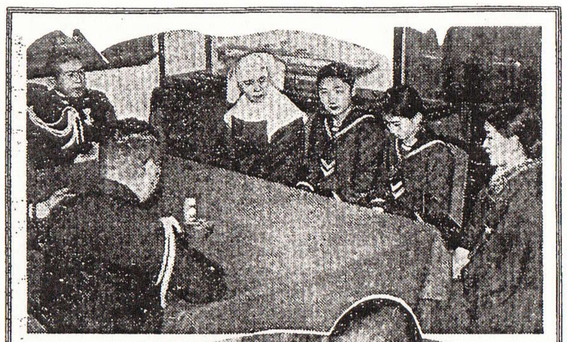
中根に檢事控訴

巣鴨の鋸の若妻殺し中根一郎（二三）に對しては十四日東京刑事地方裁判所で無罪の判決（求刑は懲役十年）があつたが檢事局では右判決を失當とし十五日檢事控訴の手續きをとつた

塚崎弁護士談

豫審で免訴になり抗告して公判開廷となつたがこゝでも無罪、それをしもまた控訴するのは徒らに手數をかけるばかりで無駄のやうに思ふ、かうなつたら飽くまで冤罪を雪いでやりたい

パネー號に寄す



白百合高女生
海軍省へ見舞金寄託

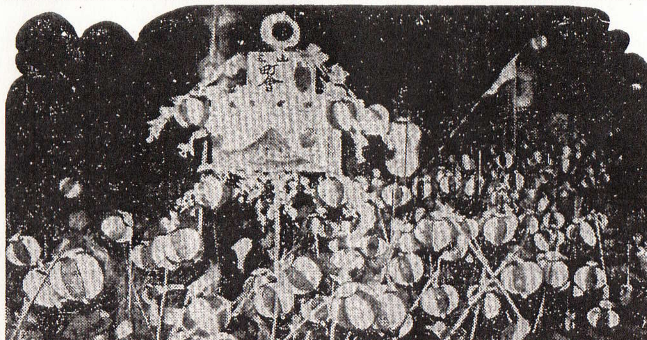
麹町區九段の白百合高等女學校生徒約五百名は十五日はからずもいふ となく米國軍艦パネー號撃沈事件の不幸な方々へ皆で御見舞金を贈り私達も日本女性として衷心から米國民にお詫びしようと醵金し、代表として同校三年生八谷榮さん（一五）池田英子さん（一五）この二人は校長フランチヌ・シャルパンチエ女史（五三）教務金澤萬里子さんに伴はれて十五日午後二時海軍省を訪れた、二階應接室で副官松山中佐、報道部細谷、山口兩中佐に面會、シャルパンチエ校長から「戰爭のこととはいへパネー號の撃沈は大變お氣の毒なことゝ今日私の女學校の全生徒が自發的にそれぞれ御見舞金を出し合ひこれだけ集まりましたのでわづかばかりですが、どうぞよろしく御取計らひ下さい」と金一封を差出した、この純眞な見舞に松山中佐らもいたく感激し「この度のことは過失から惹起されたものだけに吾々海軍軍人としては國民に心配をかけ誠に恐縮してゐる次第です 皆樣の溫かい贈り物により日本國民の眞情の一端でも外人に諒解してもらへれば非常に有難いと思ひます」と喜んでこれを受けた、海軍省では米國大使館付海軍武官を經て少女達の眞心こめたこの見舞金を不幸な災ひをうけた外人に贈ることになつた

少年外交官兄弟
外務省へ見舞金寄託

十五日夕五時ごろ二人の少年が外務省に土田會計課長を訪れ「パネー號事件は誠に殘念です犧牲者の方々がお氣の毒なので僕達兄弟で小遣を集めて持つてきました」と紙に包んだ金七圓を差し出した、土田課長このかはいゝ「少年外交官」にすつかり感激し早速米國大使館あてにその手續きをとつた、この二少年は大阪造幣局長山田龍雄氏の長男東京高師付屬中學二年生光雄君（一五）と二男同付屬小學校四年生英雄君（一〇）この兄弟で十五日學校の歸途外務省にお金を屆けに行つたのだつた、二人の少年外交官は恥かしげに語る

パネー號事件は本當に殘念です、ほんの僅ですが犧牲者に渡して頂ければ嬉しいと思ひます

寫眞説明【上】海軍省を訪問した白百合高女生、その左端はシャルパンチエ校長【下】外務省を訪れた少年外交官山田君兄弟



"戰捷"

外人記
日本

【南京にて十五日淺海特派員發】十四日早くも米國の新聞記者三名が外人記者とし